

筑後川流域クロスロード地域ビジョン



(令和6年5月改訂)

I 筑後川流域クロスロード地域ビジョンの概要

1. ビジョンの目的

「筑後川流域クロスロード地域ビジョン」は、九州の交通ネットワークの要に位置し、共通の生活圏域を有する3市1町（久留米市、小郡市、鳥栖市、基山町）において、今後の地域の一体的な発展や共通する課題の解決を目指すために必要な方策をまとめたものです。

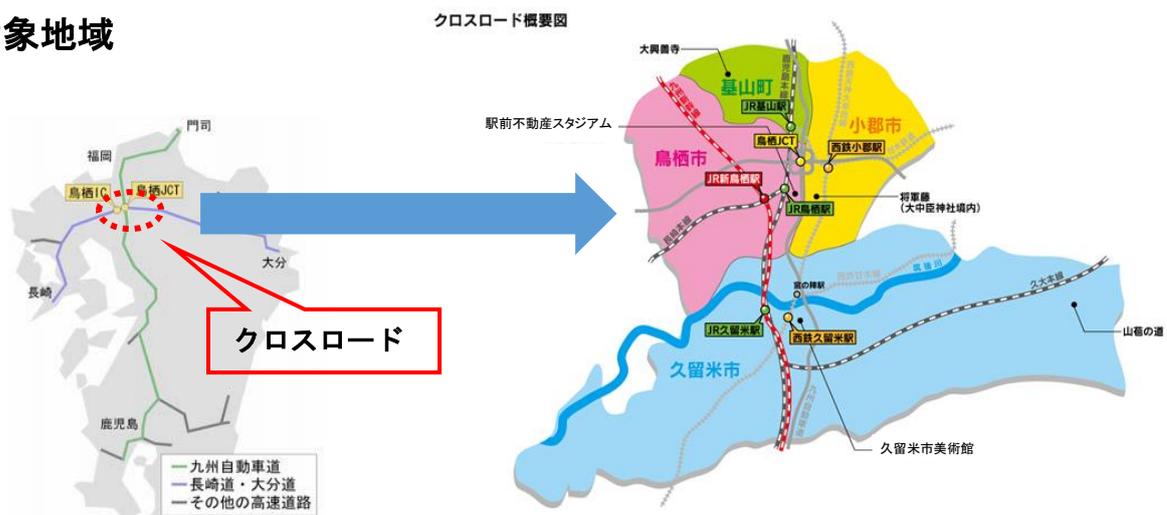
2. 地域ビジョン改訂に当たって

平成25年度から令和4年度までの10年間を計画期間とする「筑後川流域クロスロード地域ビジョン」を平成25年に策定し、～九州交通網の要衝・先進の快適環境と多彩な魅力を誇る～『九州交流の都「クロスロード地域」』を目標とする将来像に掲げ、筑後川に育まれた豊かな地域資源や、九州交通網の要衝である地理的優位性、自然と都市が共生する優れた住環境といった、この地域の強みを明確にする一方で、広域交流機能の不足、地域イメージの未確立といった地域の課題の整理を行い、取組を進めてきました。

地域ビジョンを策定してから10年以上が経過し、地域ビジョン策定時には想定されていなかった、感染症の脅威や豪雨災害の激甚化、デジタル技術の進展などをはじめ、様々な出来事が起きています。

このような社会情勢の変化や平成25年度以降のクロスロード地域における取組等を踏まえ、地域ビジョンの改訂を行いました。また、今回改訂した地域ビジョンは、今後の社会情勢の変化に対応するため、計画期間を設定せず、必要に応じて随時改訂を行うものとしします。

3. 対象地域



このビジョンは、福岡県久留米市、小郡市、佐賀県鳥栖市、基山町で構成される「筑後川流域クロスロード地域（略称:クロスロード地域）」を対象としています。

II ビジョン策定の必要性

1. 生活圏の広域化と人口減少社会への対応

交通網の整備や高度情報化社会の進展に伴い、社会経済活動の範囲は拡大を続け、住民の生活圏も県、市、町の境を越え拡大しています。

一方、我が国は全国的な少子高齢化の進展とともに本格的な人口減少社会を迎え、右肩上がりの「成長社会」から「成熟社会」への仕組みの転換期となっており、少子高齢化が進むことであらゆる行政課題に影響を及ぼし、その結果、各自治体が単独で維持してきた都市機能の確保や住民サービスの充実・向上などが難しい状況になってきています。

そうした厳しい環境下において、各自治体は多様な住民ニーズに対応していくために、限られた資源を最大限に活用した効率的な行政運営を行っていくことが求められており、住民の生活圏単位での共通の課題への対応や一体的な地域戦略を行う必要があります。

2. 地域ポテンシャルの発揮

クロスロード地域における平野部の面積や人口規模などは、九州内の県庁所在地と比較してもそれほど遜色のない地域であると言えます。

この地域のポテンシャルを生かすため、単独の自治体単位ではなく広域的にとらえた地域の一体的なビジョンをもつことが重要です。

3. 本格的な都市間競争への対応

クロスロード地域は、主要国道や高速道路、鉄道などが縦横に貫く九州交通網の要衝となっています。人流の確保や企業誘致など都市間競争の中で、九州の東西南北どこにでもアクセスしやすいという地域の特性を生かした一体的な将来戦略を描くことにより、クロスロード地域の存在感を示すことができます。



▲久留米市役所



▲小郡市役所



▲鳥栖市役所



▲基山町役場

Ⅲ クロスロード地域の概況

1. 地域の自然・地理的状況

- 地域面積：369.34 km²（令和5年4月、国土地理院公表）
- 九州北部、福岡県南西部・佐賀県東部に位置し、九州最大の都市である福岡市から約20～40 kmの距離にあります。
- 脊振山系・耳納連山、筑後川、筑紫平野など山・川・平野の豊かな自然環境を有しています。
- 九州の高速道路のクロスポイントである鳥栖ジャンクション、多くの国道・鉄道網、2つの新幹線駅などを有する交通の要衝となっています。

2. 地域の人口

- 地域人口：454,122人（令和2年国勢調査）
- 平成27年から令和2年までの期間で人口の伸び率は横ばいとなっています。また、令和2年時点の年少人口率は13.07%（九州平均の年少人口率12.86%）、高齢化率は28.28%（九州平均の高齢化率31.8%）となっています。

3. 地域の経済的状況

- 第一次産業：平野部での稲作を中心に、野菜・果物など多様な農産物を生産しています。令和3年市町村別農業産出額では、地域合計で343億円であり、全国18位に相当する額となっています。
- 第二次産業：国道沿いや高速道路インターチェンジ周辺を中心に、地域内で様々な開発や企業誘致が行われています。
 - ・新産業団地の開発、研究機関の集積
 - ・製造業、流通業企業の積極誘致
- 第三次産業：交通ネットワークを生かした既存の商業施設や新たに誘致された商業施設によって郊外ににぎわいが創出される一方で、中心市街地や地域商店街の空洞化が課題となっています。

IV クロスロード地域の強み

1. 九州交通網の要衝

クロスロード地域は、九州各県の主要都市を東西・南北に走る高速道路や鉄道により短時間で結ぶことができる九州のクロスポイントに位置しており、九州交通網の要衝と呼ぶにふさわしいエリアとなっています。その立地を生かし、鳥栖ジャンクションを起点とした九州内の物流の大きな要衝にもなっています。令和6年度には小郡鳥栖南スマートインターチェンジが開通予定であり、九州自動車道における利便性の向上が期待されます。

2. 自然と都市が共生する優れた住環境

クロスロード地域は、山や川、田園などの豊かな自然に触れ合える環境にありながらも、医療をはじめとして教育機関、研究機関、商業施設、娯楽施設などの都市機能が充実した地域です。

特に医療環境では、高度救命救急センター、広域小児救急センター、ドクターヘリの運行など、救急医療体制も充実しています。また、地域内には重粒子線がん治療センターであるサガハイマツトもあり、九州内でも有数の高度医療地域でもあります。

また、鉄道沿線を中心として住宅地の開発が進められてきた地域でもあり、地域の都市機能と美しい自然環境が調和する優れた住環境を形成しています。

3. 筑後川に育まれた豊かな地域資源

筑後川に育まれた豊かな土壌と豊富な水資源を有するクロスロード地域は、古くから農業をはじめ多様な産業の集積といった面で発展してきました。平野部が多いことから開発しやすい地域形態であるとともに、歴史ある寺社仏閣や多彩な文化施設、豊かな食文化など様々な地域資源が存在します。



◀ 小郡鳥栖南スマートインターチェンジ

V クロスロード地域の課題

1. 広域交流機能の不足

交通の要衝に位置する関係から日帰り客等は多く、また大規模集客施設などの広域交流施設も一定程度あるものの、それらの地域資源を生かした連携事業が十分であると言えないことから、広域交流機能や広域的な事業の充実が求められます。

2. 地域イメージの未確立

クロスロード地域の地域資源は、全国的にも名前が知られているものが多くあり、活用次第で地域の知名度や魅力を大きく向上させる可能性を秘めています。魅力ある地域資源を一体的に活用し、地域の知名度向上やPR への取組を効果的に実施することが必要です。

3. 地域の一体感の醸成

これまでの歴史的背景や行政機構が異なっていることから、住民意識における地域の一体感の醸成を継続的に行っていくことが重要であり、一体的なイベント開催などを実施していく必要があります。



VI 将来像と重点取組

1. 目標とする将来像

～九州交通網の要衝・先進の快適環境と多彩な魅力を誇る～

『九州交流の都「クロスロード地域」』

クロスロード地域が一体的に連携したときに持つポテンシャルは非常に高いものがあり、それを生かしながら、医療をはじめとする都市機能をさらに高め、地域資源や多彩な魅力を最大限に活用した情報発信を行うことにより、九州交通網の要衝としてふさわしい役割を果たすことができると考えられます。

そこで、県境を越えた広域連携の更なる進展による地域内住民の住みやすさの向上と地域の発展のため、その抜群の交通利便性を最大限に活用し、九州各地の人・モノ・情報が集まる九州の総合交流拠点を目指します。

2. 目指す地域像（目標実現への3つの柱）

（1）人・モノ・情報が集まる九州の総合交流拠点

九州交通の要衝にある地域特性を有効に活用し、人・モノ・情報が活発に行き交い、地域内外の多様な文化が混ざり合う、九州の総合交流拠点としての役割を担います。

（2）自然環境と都市機能が融合した快適住環境地域

地域の美しい自然環境との共存を重視し、医療をはじめとする都市機能を更に高めることにより、誰もが暮らしたいと思う、調和のとれた先進的な快適環境を形成します。

（3）豊富な資源や多彩な魅力が集約された吸引力ある地域

地域の資源や魅力を最大限に活用し、クロスロード地域として情報発信を積極的に行うことにより、個性的で多彩な魅力あふれる地域としてのイメージを確立し、多くの人が訪れたい地域を目指すとともに、地域の一体感を醸成し、更なる一体的な発展を図ります。

3. 重点取組

(1) 人・モノ・情報が集まる九州の総合交流拠点

○交流拠点を生かした人流の創出

平成 28 年 4 月に開館した久留米シティプラザは、久留米市の中心部に立地し、文化施設としての機能、医療や企業の発展・交流を促進するためのコンベンション施設としての機能、そして、中心市街地活性化の役割を担う中核的施設としての機能を併せ持った施設として、整備されています。

また、地域内にはそれぞれ特色を持ったスポーツ施設も点在しており、令和 5 年 4 月には鳥栖市にサロンパスアリーナが開設され、地域におけるスポーツの拠点がさらに充実しました。

これらの地域資源を生かすことで、地域外からの人の流れを創り出し、地域内の活性化につなげます。

○広域交通ネットワークの活用

クロスロード地域は、九州の交通の要衝という特色を生かし、九州における一大物流拠点となっています。令和 6 年度に開通予定の小郡鳥栖南スマートインターチェンジ西側地域では、官民連携による大型の産業団地の整備が計画されており、小郡インターチェンジ周辺では新たな商業施設の開業が予定されています。

また、鉄道網、高速道路網の要衝であることから、地域内の新幹線駅や九州内の高速バスの乗継地点にもなっている基山パーキングエリアなどはインバウンド客の九州内への旅行の中継地点となることができ、地域内でのインバウンド消費が期待されます。

九州の東西南北どこにでもアクセスしやすいという利便性を持った、これらの広域交通ネットワークを維持・発展させていくことで、地域全体の更なる発展につなげます。



▲久留米シティプラザ



▲基山パーキングエリア



▲サロンパスアリーナ

（２）自然環境と都市機能が融合した快適生活環境地域

○快適住環境の充実

クロスロード地域は、筑後川流域の豊かな自然に触れ合える環境を持つ一方、教育や医療、交通ネットワークなどの都市機能も充実しています。

特に医療分野に関しては高度救命救急センター、広域小児救急センター、ドクターヘリの運行など救急医療体制が充実しており、重粒子線がん治療センターであるサガハイマットがあるなど、高度医療地域となっています。

また、これまで述べてきたように、この地域は広域公共交通ネットワークが地域内に縦横に配置された地域です。今後進展する人口減少や少子高齢化社会に対応するため、地域内交通ネットワークの充実を図ることで、更なる利便性の高い住環境の実現を目指します。

快適な生活環境のためには、都市機能だけでなく、周辺の自然環境も重要です。地域内にある筑後川や耳納連山、脊振山系といった豊かな自然環境は、市民の憩いの場や四季折々の自然の恵みをもたらしてくれます。それらの自然を観光資源とした情報発信を行うことで、地域内外の人の動きを活発にしていきます。

○一体的な住民サービスの提供

生活圏の広がりに伴い多様化、広域化、高度化する行政ニーズに対応していくにあたっては、広域的に取り組むべき行政課題についての検討を行う必要があります。クロスロード地域各市町の先進的な取組を地域全体に普及させ、共同で行う方が効率的、効果的な事業を連携して行うなど、広域的連携による住民サービスの向上に努めます。

これまでも、図書館の相互利用や地域の安全・安心情報配信などに取り組んできましたが、生活、文化、経済などあらゆる面で結びつきを持つクロスロード地域は、今まで以上に連携を深めていく必要があります。子育てや医療など地域に密着した生活情報を相互に発信し、地域全体での情報共有を図るとともに、地域外への情報発信も積極的に行い、地域の一体的な発展に取り組んでいきます。



◀ サガハイマット

（３）豊富な資源や多彩な魅力が集約された吸引力ある地域

○企業や産業の集積促進

クロスロード地域には、交通利便性などのメリットを生かして既に多くの企業や産業が集積しています。一方で、国内外の様々な要因により、国内産業は大きな転換期にあります。将来にわたり持続可能な地域づくりを進めるためには、地域の様々な資源を活用して、成長性の高い新たな産業を育成し、地域経済の活力を創出していく必要があります。

地域内には久留米リサーチ・パークや久留米高専産学民連携テクノセンター等の研究開発支援組織や、九州シンクロトロン光研究センターや産業技術総合研究所九州センター等、国内有数の技術開発機関が存在しています。こうした地域内の優れた研究開発・技術開発機能を活用して、地場企業の技術の高度化を支えるとともに、新たな企業の誘致や産業の創出、地域産業の高度化に向けた取組を進めます。

また、医療分野においては、充実した救命医療体制やサガハイマットをはじめとした高度医療施設などがある高度医療地域となっていることから、大切な生命を守る先端医療分野の充実を図り、更なる発展を遂げる事が、地域の強みとして大きな吸引力ともなります。

これらの取組を進め、地域内の企業や産業の集積促進を図ります。

○地域資源や魅力の一体的活用と情報発信

クロスロード地域には、歴史遺産や文化・芸術、食文化など様々な地域資源が存在します。こうした魅力ある資源を地域内で共有し関連付けることで地域内の回遊性を高める仕組みを構築するとともに、地域外に向けて情報発信していくことで、効果的に移住・定住促進を図ります。

○地域の一体感醸成

日常的な買い物や通勤・通学などで地域内を行き来している地域の住民にとって、行政界の意識は薄いと考えられ、生活実態において地域は一体化していると考えられます。一方で、それが「クロスロード地域」を意識した一体感ではないことが課題となっています。

そこで、地域としての一体感を醸成するため、平成24年度に「サガン鳥栖応援宣言」を行い、連帯したイベントの実施を行っています。今後もプロスポーツチームを活用したイベントの充実を図りながら、その他にも地域内での雇用の促進など共同した取組を行うことで、地域の一体感を高め、地域の発展を目指します。

筑後川流域クロスロード地域ビジョン

発行 令和 6 年 5 月

筑後川流域クロスロード協議会（久留米市・小郡市・鳥栖市・基山町）